

# 我が国の建設プロジェクトマネジメント の展開

学生氏名 岩崎良輔

指導教員 皆川勝

# はじめに

- 日本における建設市場の仕組みは、社会基盤にあわせて独自に作られてきたものであり、その技術水準は世界標準以上である。しかし今日建設市場の国際化を見据えた変革が必要になっている。

本研究では、日本の建設市場が持つ特性を分析し、いかに国際建設市場に対応できるマネジメントシステムを構築するかを考えるものである。

# 日本の建設業界の現状

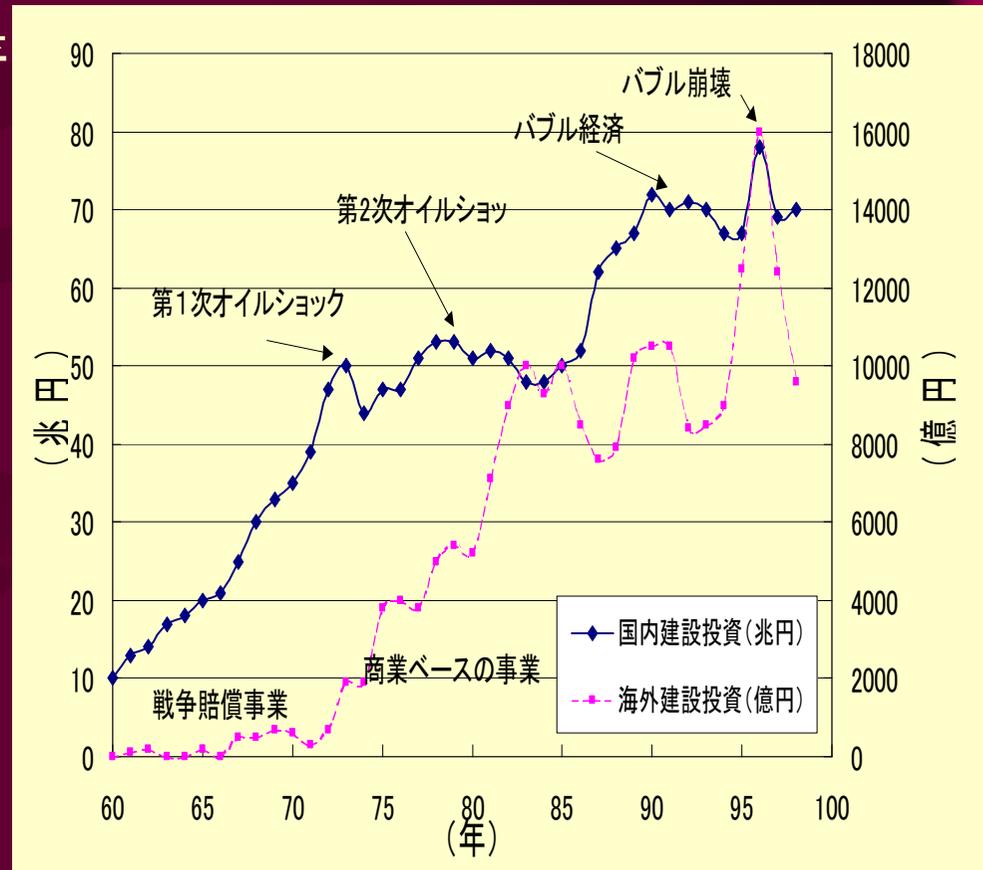
海外建設投資の伸び率が顕著に見られるのが3回みられる。



- ・第1次オイルショック後
- ・第2次オイルショック後
- ・バブル経済化



3回とも全て急激な伸びの後急激に減少している



## 海外建設投資増加の原因

第1次、第2次オイルショック後の  
国内建設市場の受注量低迷  
これを補填するための政策として  
国際市場での受注量増加を狙う



海外建設投資の増加

## 海外建設投資の減少の原因

第1次、第2次オイルショック後に実施されたプロジェクトの完成が近づくにつれて  
巨大な損失を生み出すことが判明



海外建設投資の減少



日本の建設業界は国内市場での事業量確保  
最優先である

## 問題点

- ・国際市場にも関わらず、日本国内の事業の延長戦上の経営理念のままマネジメントを考えていたこと
- ・国内市場の復調により、企業が海外でこうむった損失の原因や対策を講じることなくそれまでの方法論や人材を否定したこと



これまで積み上げてきた経験値が組織に吸収されることなく終わってしまった

## 問題点2

企業が求めている人材



- ・現場で活用できる専門的知識をもった人物
- ・技術英語が使える人物



現在の大学教育では現場において即戦力になるような教育を行っていないところが多い



国際的な競争力の低下

## 対策と考察

- 日本の施工技術は世界でも有数の水準を誇っている。これをどうやって活かしていくのが国際市場に強い企業を作り上げる要素になる

## 建設市場のシステムの再構築

今まで行われてきた“下請け企業を叩いて儲ける“という回復利益を頼りにしたゼネコンの体質改善が必要である。



ゼネコンを強かにサポートするコンストラクションマネジャーを育成する必要がある。

## 建設CALS/ECの導入

建設CALS/EC (Continuous Acquisition and Life-cycle Support / Electronic Commerce)の導入が効果的である。

インターネットで情報を公開することにより多くの人々が理解し、公平に入札ができるようになる。



公共事業の全てが不要なものであるという極論が減少する。

## 大学教育の改革

今までの企業の体質改善のために専門的知識をもった学生の教育が必要になる



- ・コンストラクションマネジメントに関する教育を積極的に取り入れること
- ・応用力学、水理学、コンクリート工学、土質力学などの基礎的な教育にマネジメントを関連付けすることによって学生の目的意識を高める

## プロジェクトマネジメントのシステム化

プロジェクトに関わった人の経験値は企業にとって重要なものとなる。



- ・個々人の経験値、業務処理結果の統合
- ・プロジェクト動向の全体像、不確定要素の把握

# まとめ

- これまで日本の建設市場は独特の社会基盤や倫理観を背景に発展してきた。これを十分に分析せず、ただ欧米のマネジメントシステムを輸入したのでは、かえってプロジェクトの生産性の低下を招きかねない。我が国の建設産業に適合したマネジメントシステムの構築には、日本企業の持つマネジメント特性をしっかりと把握した上で世界諸国が共有化できるシステムを目指すべきだと考える。